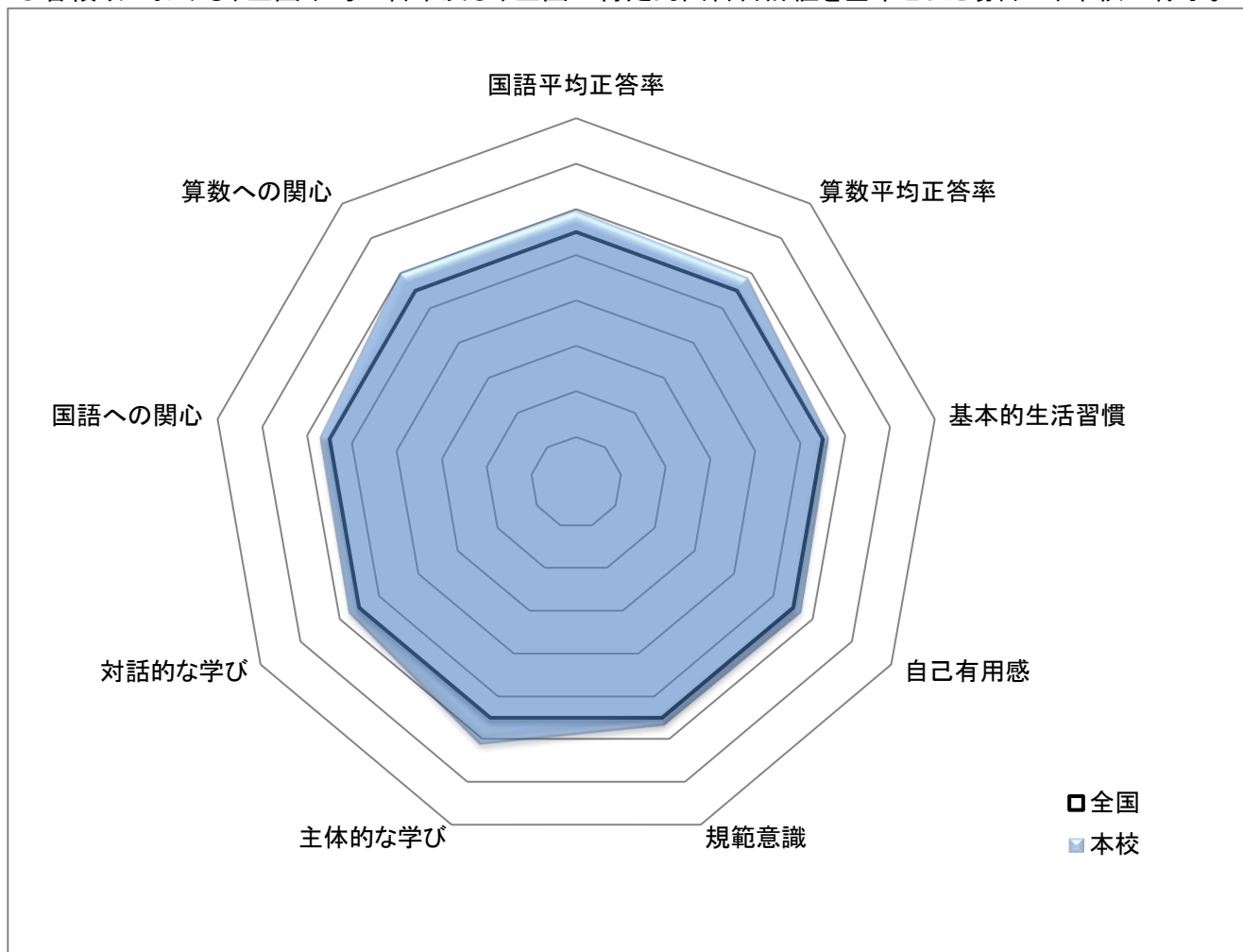


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- 各教科と特別活動を関連付けた学習活動が相互に影響し合い、児童の主体性を育成することにつながっている。
- 児童自ら学習計画を立てたり、調べたことを基に相互に学び合う学習形態が定着し、児童が主体的に学ぼうとする態度が育まれている。
- 学習への興味や関心が高い一方で、論理的な思考を行うための読解力が十分に定着していない現状もみられる。

《授業改善のポイント》

- 各教科等の基礎基本となる読解力と論理的思考力の定着を図る授業を展開する。
- 国語や算数で使うことばや記号の意味について、辞書を活用したり具体物を操作したりする活動を取り入れ、ことばや記号の意味を理解させる。
- 児童の学習状況を踏まえ、基礎的基本的な学習問題や発展問題への取組を継続して行う。
- 各教科等で醸成されてきた主体的に学ぼうとする態度を生かし、問題や課題を解決するための話し合いや思考ツールを取り入れた授業を引き続き行う。

《チャートの特徴》

- 全国の回答率を基準とした場合、本校はすべての領域において上回っている。
- 国語と算数の関心への高さを比較すると国語への関心が上回っている。一方、国語と算数の平均正答率を比較すると国語の平均正答率が上回っている。
- 各領域の中で主体的な学びが最も高く、なかでも課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組みようとする態度に対する肯定的な回答が90%超である。

《家庭・地域への働きかけ》

- 各家庭で設定したルールを守りながら、アプリを活用した家庭での学習を一層充実させる。
- 主体的な学びと学力との関係が分かるよう、引き続きHP等を活用し情報を発信していく。
- 基本的な生活習慣を整え、児童の健康と学ぶ意欲が高められるよう養護教諭とのTTによる授業を行い、保健だより等活用し家庭に働きかける。